

成果の説明書

(氏名) 天羽 正継	(学部) 経済学部
1 重要事項 <ul style="list-style-type: none">・従来からの研究テーマである日本の地方債の歴史的研究について、主として内務省地方局『地方財政概要』を基に、基礎的な統計データの構築を行った。・橘木俊詔・宮本太郎監修、高端正幸・伊集守直編著『福祉+α 福祉財政』（ミネルヴァ書房、2018年5月刊行予定）の第4章「福祉を支える政府間財政関係」を執筆した。・文部科学省科学研究費（基盤研究 B）「地方債の動態的実証分析」（研究代表者：東京大学経済学部教授・持田信樹氏）の連携研究者として、2018年3月16日に開催された研究会に出席した。・『新・港区史（仮称）』第4章「税財政」の執筆予定者として、2017年9月1日に開催された執筆者会議に出席した。	
2 その他の事項 <ul style="list-style-type: none">・ゼミでの成果<ul style="list-style-type: none">・第3期生の卒業論文集を刊行した。・2018年2月15日に本学において、新潟大学経済学部の根岸ゼミと合同ゼミを行った（対象：2・3年生、内容：グループディスカッションとプレゼンテーション）。・2017年11月21日に群馬県立富岡東高等学校において出前授業を行った。・地域科学研究所「連携公開講座」の講師として、2017年5月20日に高崎市中央公民館で「日本の財政を考える」と題する講演を行った。・2018年2月9・16日にラジオ高崎で放送された「ラジオゼミナール」に出演した（テーマ：日米比較から考える地方自治体の財政破綻（2月9日）、「ギリシャ危機」から考える地方財政制度（2月16日））。	
3 次年度以降の計画・抱負 <p>【研究】従来からの研究テーマである日本の地方債の歴史的研究を引き続き進めることに注力したい。上記のように、今年度は基礎的なデータの構築に努めたが、完成には至っていないため、まずはこれを完成させることを次年度の目標としたい。また、上記『新・港区史（仮称）』の執筆や、その他の研究にも今後取り組んでいく予定である。</p> <p>【教育】ゼミの3年生については、サブゼミとして群馬県内市町村の財政分析をテーマとして取り組ませる予定であり、最終的には論文集としてまとめられるよう、自分自身も学びつつ、指導を行っていききたい。4年生については例年通り、質の高い卒業論文集の完成を目指して指導を行っていき予定である。</p>	